



留学生の声

CONNECTING FOR A BETTER LIFE

PHUNG Duc Luc 連合農学研究科2年(渡部徹研究室)

Hi there,

First of all, I would like to thank people who get me involved in this episode, and I do appreciate people who are reading this message. I hope all of you are doing well and comfortably settling into your routines for the new semester. Although the COVID-19 pandemic certainly brings new challenges that none of us bargained for, I believe that we can work together to overcome these challenges.

My name is PHUNG Duc Luc and I'm from Viet Nam. Currently, I'm doing my Ph.D. in *Agricultural and Environmental Engineering in the laboratory* of Prof. WATANABE Toru. Speaking of my Ph.D. journey in the Tsuruoka campus, I still remember how it got started. It was an evening, I arrived at Tsuruoka station at around 19:30. Getting off the train, I found a chill autumn rain waiting for me. “Oh, it's dark and deserted”, said to me. I felt somehow little alone carrying the luggage from the train tracks into the station, and really got touched when seeing two Vietnamese seniors who had been waiting for me in front of the station door. They took me to their dormitory room, after several minutes getting to know each other. That was the very first time we met, and until now I'm thankful very much for this Ph.D. journey connecting me to them as well as many other dear fellows and very nice local people later on. Back to that day, my luggage was carried on the rear seat of a bicycle while three of us walked in the rain. On the way to the dorm, though it was quite dark, I realized that there was a cemetery right beside the road, which was quite strange to me. I didn't know why I get impressed by that cemetery until 3 weeks later when I found out that my newly-rent house was right beside the cemetery. By the way, I stayed in the senior's dorm for weeks to find a suitable house to settle down and start a new life chapter. And that was my very first memory in Tsuruoka. So far, I've been here for 3 years. During the time, despite confronting a number of difficulties commonly faced by foreigners for the first time here, I don't let them blind me to experiencing a beautiful life in Japan. There are a bunch of amazing things and many wonderful people, Japanese and foreigners, that I would love to talk about here, but I don't think I have enough space ☺.

Honestly, it was not easy to pick up a specific topic to share with you on this occasion. I had been thinking about that, then suddenly “*Connecting The Dots*” popped up in my mind. I have used the concept of connecting the dots (inspired by Steve Jobs) to guide my way for a certain time. It actually makes me want to become a better person, striving for the better in every single work on my journey. That's really meaningful to me, then I thought, why not to share it with you. Some of you might have listened to Steve Jobs and know the concept, that's great. For those who don't know yet, I do hope this message is urging you to look for it (just simply google it ☺). Considering this occasion for me to share my thoughts or your reading my story as a dot as well, either of them might connect you and me somehow someday in our future, or even right now. We never know what is waiting for us in the future, don't we? Every single one of us can and should play an active role to connect the dots in our own ways. For me, by connecting the dots, I'm so grateful for what I've got so far and have learned to shift my own perspective to see situations from different angles as well as to respect both the bad and the good things of myself.

As we are adjusting to “The New Normal” and started a new semester, I encourage you to think about how you will move forward every single day and fulfill your school life by connecting the dots and people here and there, especially by socializing with the international students around you, considering the given circumstance of safe gathering ☺.

Lastly, I am looking forward to everyone having a great and healthy semester ahead!

PS.

I'm a fan of photography and exploring around. If anyone of you has the same interests, I do expect to have time to share our stories or just simply to chat about the interesting things in our life. You are always welcome to our room (1157) where you can meet cool guys from a number of countries, such as Burkina Faso, Cambodia, China, Indonesia, Senegal, and Viet Nam ☺.

支部報告

北海道支部

「芋煮会の思い出」

月山会副会長

大沼 広行

(昭和58年農業工学科卒)

昨年30回目の節目を迎えた月山会は、例年9月に開催していますが、今年はコロナ禍の状況から中止となりました。

また、10月第一日曜日に札幌山形県人会主催の芋煮会に山形大学卒業生の特別席を設けていただき、数年前から10人程の会員が楽しみに参加していましたが、同様に開催が中止となり、山形から取り寄せの本物の芋煮を食べることができませんでした。

今年は月山会の活動を報告することはできませんが、私の出身地余目町(現庄内町)の芋煮会の思い出について投稿させていただきます。

東北各県の芋煮の素材や味の優劣を競った秘密のケンミン・シヨを興味深く拝見しました。私の山形時代は、庄内は味噌の豚肉、内陸は醤油の牛肉といった

山形県内における地域差は承知していましたが、宮城や福島県にも芋煮会の文化が根付いているとは知りませんでした。

昭和40年代、小学・中学校では稲刈後の10月、グランドの周りや最上川を会場に学校の正式行事として芋煮会を行っていました。

小学校では、一年から六年生までの通学班単位で各家庭から持ち寄った芋(ずいき芋・里芋・つま芋・じゃがいも何でもok)・厚揚げ・こんにやく・ネギ・白菜・ごぼう・人参・きのこ類と豚肉などの食材と大鍋などの調理器具、かまどを作る杭やスコップ、マキをリヤカーに積んで通学し、2時間目の授業終了後、全校児童が一斉に調理にかかります。

当時は、自前で味噌を作る農家が多かったのですが、各家庭自慢の味噌が混然一体となったごった煮風芋煮ができあがり、競うように先生に食べてもらったことを記憶しています。

中学校では、教職員・生徒千人以上が余目町榎木地区の最上川の河原に自転車集合し、勝手気ままに調理します。もうもうと立ちあがる煙は圧巻の光景だったと思います。

クラスメートや上級・下級生達と工夫しながら協力してかまどを設営し、一つの大鍋を囲んで作った個性的な芋煮を食べる芋煮会は、地産地消、まさに食育

そのものだと思います。山形を離れて37年経ちましたが、楽しい思い出となっています。

結びに、一日も早くコロナ禍が収束し、来年は多くの会員が月山会に集い、元気で逍遙歌を斉唱できる日を迎えられるよう心から願っています。

庄内支部

副支部長

芳賀 修一

(昭和46年農学科卒)

令和2年2月22日三川町「田田の宿」において、第4回「庄内農業を語る会」を開催しました。第3回までは「農業者の会」の名称で、農業に従事している卒業生を中心とした会の開催でしたが、本年からより広範な農業関係者で庄内農業の課題や将来について語る趣旨で名称を変更して開催することになりました。参加者は17名で、内農業者は7名でした。

高橋敏能支部長のあいさつと、百瀬清昭鶴窓会副会長から来賓のあいさつを頂き、全員の自己紹介の後、語る会の本題に入りました。

今回のテーマは「庄内農業の持続的発展を目指して」とし、

話題提供の一つ目は、食料生命環境学科准教授松山先生による「地域産飼料を活用した食肉加工品の開発」で、山形大学で取り組んでいる「スマート・テロワール」構想の具体的な実践発表でした。内容は、庄内地方で生産された資料資源(馬鈴薯、小麦、大豆、デントコーンの規格外品)を活用して豚を飼育し、庄内の加工事業者によりハムやベーコン、ウインナーに加工し、庄内のお店で販売する食料自給圏の形成を目指した実践でした。

二つ目は、私芳賀修一による、「産直提携30年の歩みと課題」で、(農)庄内協同ファームの設立の経過と今日までの流れを発表させて頂きました。庄内地方には、平田牧場をはじめ、首都圏の共同購入型の生協さんと産直提携をしている生産者組織が多く、隠れた農業生産流通の歴史が有ります。

生産の基本は、安全性で、有機栽培と特別栽培の農産物を再生産できる価格で値決めし、注文数に応じて納品するやり方です。価格の変動はなく、安定した経営が可能ですが、手間のかかる作業のため、規模拡大の必要性和折り合わない

課題が生まれてきました。

二つの話題提供の後、藤科准教授の司会により意見交換を行いました。今後の庄内農業の在り方を様々な立場で、活発な意見交換がなされ、有意義な会となりました。

その後、鶴窓会から頂いたお酒や、持ち込みの飲み物も頂きながら、にぎやかな懇親会となりました。

庄内農業について、話したい方はどなたでも参加できます。

次回は令和4年開催の予定です。大勢の皆様の参加をお待ちしています。



第4回「庄内農業を語る会」 令和2年2月22日(土)於:三川町「田田の宿」

村山支部

支部長

齋藤 博行

(昭和45年農学科卒)

新型コロナウイルス感染防止のために、村山支部の総会は中止しました。本来なら支部役員会議を開催すべきでしたが、感染防止対策として、携帯電話のSNSを活用して、支部総会の中止について提案し、返信を頂いた方全員から了承を得ました。在宅で過ごす日が多いなかで、電話で連絡しあうことは大変重要なことで、同窓生との会話は楽しく明日への力になります。

ところで、村山支部は農業高校の教員経験者、現職者が多く、初代支部長の尾形昭雄さん、元支部長の大内崇さんは農業高校、現職の柴田浩さんは置賜農業高校に勤務しています。平成になつてからは、小学校や中学校の教員もいるようです。しかしながら、農業高校が産業高校として統合なると教員採用がほとんどないようです。

これまで60名近い教員採用者がいて、本県の後継者育成教育に多大な貢献をしてきました。

私自身も庄内農業高校で教育実習を行い、農業高校の教員免許を取得し、教員を志望して

いましたが、県職員採用の第二次試験と教員採用試験の日時が重複してしまい、結局県職員になりました。

私が人事異動で山形県立農業大学校に勤務することになったときは教員免許を持つていたことで何も不安がありませんでした。全国には各県に農業大学校が設置してあり、県職員の場合にはここに勤務することになれば教員免許の有無が教育指導に大きく影響することは当然です。

このようなことから、学校教育の現場以外でも教員免許は非常に重要で、社会におけるリーダー、管理職としての役割を果たすときに非常に役立つ資格だと思います。

ところが、平成31年から農学部での教員免許関係講義の教員は独自で確保することが条件になり、人件費の問題から廃止になってしまいました。

昨年の村山支部総会でも、大きな問題として話題になり、早急に元に戻すべきとの意見でした。村山支部としては、県の農業高校校長会からの要望を取りまとめ、教育庁に提出すべきとの話もありました。

兎にも角にも、講義ができる教員確保のためには毎年数百万円の予算確保が必要ですから財源問題が重くのしかかります。

関西支部

鶴窓会関西支部は昨年10月14日(日曜日・当日は台風)13回目の総会を終えて、又先4月には第5回都市の自然環境研究会(俗称芋煮会)を開催し、終えております。米沢工業会から招待を受け秋に芋煮会・総会に参加、そして、年が明け、新年にふすま会からも招待を受け参加、4月下旬に第6回都市の自然環境研究会(俗称芋煮会)を計画準備しておりましたが、世情が急変、マスクを着用する日々がつづいておりますことで中止となりました。また、当会各幹事・会員とのネットワーク打合せが十分とは云えないまでも、もたれました。また、今年の第14回関西支部総会は世情を考え中止となりました。11月28日(土)、米沢工業会においてオンライン会議開催の予定。支部役員より参加の呼びかけがありました。

(関西支部…大阪市中央区東心斎橋1-9-6、シティコープ心斎橋601、旧地方計画設計コンサルタント事務所
TEL 06-62552-6887)

追記

コロナが始まった一時、外出を控え、近所の河原にてダンスのフォーメーション、ウクレレ用の作

新潟県支部

事務局次長

阿部 徳文

(昭和56年農学科卒)

新潟県支部は昨年8月に設立総会を開催し、立ち上がったばかりの支部会です。当初、設立後初めての総会を本年8月22日に行う予定でしたが、コロナウイルス感染拡大により開催を見送りました。昨年来、総会準備等を検討するための役員会すらできない状況が続く、この間、書簡による意見集約等を図りながら、総会開催に向けた検討をしてきたところですが、残念ながら断念せざるを得ない状況となつてしまいました。

しかし、気持ちも新たに来年度の総会開催に向けた準備を早くも始動し、去る9月5日、新潟駅前のクオリス「越後まる松」で役員会を開催しました。当日は、役員6名中支部長以下5名が出席し、マスク着用で席間を空けて会議を行い、各種報告、来年度総会及び会運営等について話し合いました。まず、支部長より本部会議が書面決議となったことなどが報告されました。その後、総会出席者の増大・確保、支部活動の盛り上がり、予算確保等の方策などに関して、意見やアイデアを出し合いました。

曲しつある「河原の宴」(都市の自然環境研究会 俗称芋煮会用)を唄ったりしていました。本会員の方々は、農業を職業にしている、もしくは家庭菜園をやつてる人はじつくりと打ち込めるとも云える面があるのかもしれない。(T・Y)

第5回 都市の自然環境研究会 (俗称芋煮会)

2019年4月清々しい晴天の日に都市の自然環境研究会(俗称芋煮会)を開催。嬉々とした青葉・樹木、川の流れに囲まれた地酒・芋煮に米沢工業会・山形県人会の方々も加わり5周年記念にふさわしい良き会と成りました。

三大橋下、大川・堂島川・土佐堀川に沿って河川敷遊歩道(中之島公園を含む)等を散策。樹木調査、魚類、鳥類、河川水質、護岸、大気、オゾン、景観、歴史等、都市の自然環境について研究、昼食に芋煮会を楽しみつつ、午前午後に分けて実施しました。

参加者は菅原(山形県人会代表)、佐藤(米沢工業会代表)鈴木顕雄、松田、柳本、樋上菅、安富、虎田、大徳、浜本夫妻(地元グループ)

松田、柳本、小生各幹事の創意工夫されたパンフ(柳本の樹



第5回 都市の自然環境研究会(俗称:芋煮会) 令和元年4月



役員会 令和2年9月5日(土)

特に会員及び総会出席者の増を図ることが重要な課題となつており、会議の中では、現会員による農工や林科独自の同窓会員等に対する勧誘や総会時の魅力ある講演の開催などの考えが出されました。また総会を盛り上げるために、事例紹介、情報提供、近況報告、会への提案など自由な会員発言の場を設けることなどのアイデアが出され、近況報告や意向調査の実

施など、出来ることから取り組んで、今後の支部会活動が活発となり有意義なものとなるようにしたいと考えています。

この日は会議の後、昼食を兼ねた懇親会を行い、お互いの近況や様々な情報交換によって親交を深めることができました。

関東支部

令和2年度鶴窓会関東支部総会は中止します

令和2年度の総会について夏以降に開催(延期)としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催を中止することといたしました。なお、来年度の総会は例年通りの開催を目指します。

この内容については昨年度総会参加者にはメール等で通知させていただきました。



**「鶴窓会だより」への
広告を募集しております。**
団体・個人(名刺判)等、受け付けております。
事務局までご一報下さい。

山形大学農学部 鶴窓会事務局
TEL / FAX **0235-28-2897**
(平日 9:00 ~ 13:00)
E-mail kakusoukai@kdp.biglobe.ne.jp

会費の納入にご協力下さい。一律2,000円となりました。

〈鶴窓会事務局より〉コンビニでの支払いが可能になりましたので是非ご利用下さいますようお願い申し上げます。

山形の味を全国へ

創業1914年、百年企業になりました。

マルハチ

阿部徳文(昭和50年農芸化学科卒)
山形県東田川郡内町甘六木字五反田 75-1
TEL 0234-43-3331

山形のだし 雪ん娘® やわらか菜®